

別紙様式 2

授業科目名	漢文学概論 A	大学名	作新学院大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	前期 (4月11日～8月1日)
学部・学科等	人間文化・発達教育	曜日	木曜日
必修・選択区分	選択	時限 (時間)	2時限 (10時40分～12時10分)
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	作新学院大学
担当教員名	玉城 要		
電話番号 (代表者名)	028-667-7111	e-mail アドレス	
オフィスアワー	授業終了時に面談の予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p>&lt;授業の目標及びねらい&gt;  この授業では、日本語、日本文化とも深い関わりのある漢字・漢語・漢文についての基本的な知識の習得を目指します。特に以下の事柄について理解し、中学生、高校生はもとより小学生にでも説明できるような知識と方法を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の発生と歴史的変化</li> <li>・漢字の音読みと訓読みの違い</li> <li>・日本の漢字における旧字体と新字体の違い</li> <li>・熟語の構造</li> <li>・訓点の種類とその機能</li> </ul> <p>&lt;前提とする知識・経験&gt;  このシラバスに書かれている事柄を読んで理解できるだけの日本語力があれば十分です。</p> <p>&lt;授業の具体的な進め方&gt;  毎回、担当教員が準備した空欄補充形式の講義資料をもとに講義を行う。授業終了時、授業内容の確認、次の授業の予備学習を兼ねた簡単なクイズを実施する。</p> <p>※オンライン授業の場合は、スライド資料のpdf ファイルを提示する (音声、動画は含まない。話ことばを意識した文字主体の資料とします。読めば十分に理解できます)。学生は、毎回、授業終了時、授業の内容に関連した簡単な課題を解答・回答する。</p> <p>&lt;授業計画&gt;  第1週 漢文とは何か。なぜ漢文を学ぶのか？  第2週 文字の発生と文字神話 四つ目？の蒼頡 足跡から何が見える？  第3週 漢字のうつりかわり① 甲骨文から金文へ 古代人と占い・文字の関係  第4週 漢字のうつりかわり② 字体の統一と整理 その1 始皇帝の功罪  第5週 漢字のうつりかわり③ 字体の統一と整理 その2 科挙と楷書の整理  第6週 漢字のうつりかわり④ 日本の漢字の旧字体と新字体  第7週 漢字の構造① 最古の字書『説文解字』の世界  第8週 漢字の構造② 「六書」のはなし  第9週 漢字・漢語の三つの特色  第10週 日本における漢字と漢語① 「音」について  第11週 日本における漢字と漢語② 「訓」について  第12週 漢字・漢語と戯れる 第8週から第11週の学習をふまえて  第13週 漢文訓読の基本 漢語の構造① 語順  第14週 漢文訓読の基本 漢語の構造② 返読するとは  第15週 漢文訓読の基本 漢語の構造③ 読まない字とは</p> <p>&lt;教科書・参考書・教材と入手方法&gt;  教科書は無い。毎回、プリント資料を配布する。</p> <p>&lt;成績評価法&gt;  毎回の授業終了時に行う内容確認と準備学習用のクイズ (30%)、学期末の最終課題 (70%)の結果を総合して評価する。授業の 2/3 (10回) 以上出席しないと評価の対象としない。(単位を取得できない。)</p> <p>&lt;教員からのメッセージ&gt;  好き、嫌い、に関係なく、身の回りにあふれる漢字・漢語に興味を持つと、ちょっと人生が豊かになるかもしれません。</p>		